

佳作

前へ進め

新潟県糸魚川市立糸魚川東中学校

2年 歌川 美優

「たくさんの人に必要とされる大人になりたい」「苦しむ人を支えたい」私がこう思ったのは、去年の夏でした。私は突然、原因不明の病気に罹りました。初めは、両親が「休んでいれば治る」と言っていたので、安心していました。しかし、食べ物を飲み込むだけでお腹が痛くなったり、激痛で眠れない日があったりと、つらく、苦しい日々が続きました。そのため、検査入院をすることになりました。人生初の入院で、不安ばかりでしたが、お医者さんや看護師さんの支えで心配が薄れていったことを、今でも感謝しています。このことがあってから、私は医療関係の仕事に就き、自分も誰かを支えたいと思うようになりました。医療の中で、特に私が惹かれたのは「薬剤師」でした。薬は病気を治したり、痛みをなくしたりすることができます。反対に、間違いが許されない、命に関わるものでもあります。

医師の診断を元に、責任をもって薬を処方し、病に苦しむ人を助けたいと、より一層思うようになった今年の夏、私は「こどもクリニック」で、職場体験をさせていただきました。病児保育室は、忙しい保護者の方が子どもの面倒を見られない時に預かってくれるので、保護者の強い味方になっていることを知りました。また、子どもにとっては、初めて通ったり、久しぶりに通ったりすることで、なかなかなじめないという不安があることも知りました。しかし、職場体験初日の私は、子どもに声をかけることができず、ただ見守ることしかできませんでした。子どもたちの気持ちを考えると、「大きい人が来た」と、怖くなっていたかもしれません。体験の二日目以降は、目線や表情、言葉遣いに気をつけて接することを意識しましたが、普段の私が出てしまうこともあったと思います。

病児保育士さんは、一人ひとりの病状や性格に合った遊びや休憩を促していました。また、病気に罹っている子どもを預ける保護者の気持ちに寄り添い、共感して話を聴くことを大切にされていました。もし、子どもの病状が悪化したとしても、病児保育室の下にクリニックがあるので、すぐに医師の診察を受けることができます。これが、保護者の方にとって一番安心できるポイントだと思いました。このように、職場体験を通して、病児保育室の重要性を学ぶことができました。

私が住む糸魚川市には、病児保育室は、この1カ所しかありません。こうい

った施設をもっと増やし、安心して子育てができる環境を広げていくことが、少子化問題の解消につながるのではないかと思いました。

コロナ禍で、職場体験の受け入れが困難な中、私たちに貴重な体験をさせてくださったお医者さんや病児保育士さんに、心から感謝しています。「薬剤師になりたい」という夢をもつ私のために、最終日には、隣接された薬局にも案内してくださったことを、一生忘れません。

夢をもつことは、人生の可能性を広げるチャンスだと思います。だから、どんどん夢に向かって突き進み、自分を高めていきたいと思います。

5年後の私へ

薬剤師になるという夢に向かって、大学で勉強に励んでいますか。もしかしたら、高校で新しい夢を見つけたかもしれませんね。未来の私は、どの職業に就いたとしても、後悔はしないと思います。なぜなら、ずっと努力し続けてきたからです。そして、誰かを支えることは、どんな仕事に就いてもできると思うからです。仕事には必ず苦勞が伴います。自分で決めた道なら、簡単には諦めず、次のステップへ挑戦し続けてください。周りには信頼できる家族や仲間がいます。自分を信じて、これからも前へ進め！